

## 【検討の進め方(案)】

- 左旋の中間周波数帯域については、2018年の実用放送開始、2020年のチャンネル追加が予定されており、また対応する機器は今後製品が出回ることが想定されることから、まずは同帯域を優先して検討することにより、漏洩が発生する設備の増加を抑える効果があると考ええる。
- その中でも、BWAや衛星移動通信システムが使用している2.5GHz帯については、過去に干渉が発生した1.5GHz帯携帯電話と同様の事態となる可能性も考えられることから、左旋の中間周波数帯域の中でも優先して検討する必要があると考ええる。
- 当面、関係者による「2.5GHz帯アドホックグループ(仮称)」を設置し、干渉のモデル化や実機による検証による許容量の確認等の議論を開始する。
- その他の無線システムについては、2.5GHz帯アドホックグループ(仮称)における検討状況を踏まえ、本作業班において対象やスケジュール等について検討する。
- 制度的な側面に係る現状の整理と対応については、2.5GHz帯アドホックグループ(仮称)における検討状況を踏まえ、検討を開始する。